

付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ情報

平成27年度の付着生物ラーバ(浮遊幼生)調査は、27年4月から久栗坂、川内の実験漁場で行っています。26年度調査(蟹田、奥内、小湊、野辺地を加えて10~3月調査)の経過も含めて、その結果をお知らせします。

1 26年10月~27年9月までのラーバの出現と付着状況

ラーバ等の出現数の推移は図2~4のとおりです。また、直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	単位:個/トン		
		ユウレイボヤ	オベリア類	キヌマトイガイ
久栗坂沖	H27.9.17	1.1	0.0	0.0
川内沖	H27.9.24	0.0	5.5	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

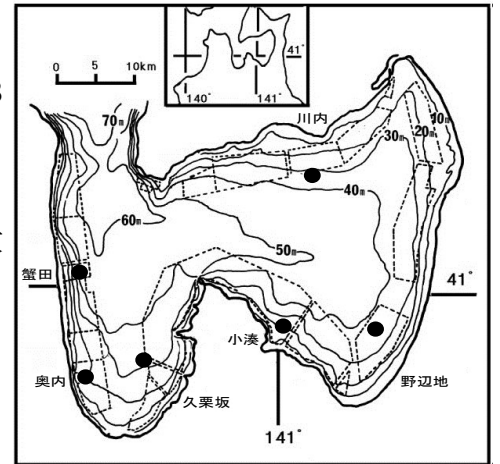


図1 ラーバ調査地点

(1) ユウレイボヤ

平成27年7月に稚貝採取したパールネットに付着が見られるほか、久栗坂沖で1.1個/トンのラーバが見られます。

(2) ネンエキボヤ

平成27年7月に稚貝採取したパールネットに群体(「コロニー」と呼ばれる)が見られます。群体内には放出直前のラーバが見えており、室内で飼育するとラーバが放出されます。

(3) オベリア類(通称:クサ)

川内沖で5.5個/トンのラーバが見られるほか、平成27年7月に稚貝採取したパールネットに数cmのクサ状の成体(「ポリプ」と呼ばれる)が見られ、放出直前のクラゲが入った「クラゲ芽」が見られています。

(4) キヌマトイガイ(通称:コメガキ)

久栗坂沖、川内沖ともラーバは見られません。

2 今後の見込み

ユウレイボヤは水温20℃以下で産卵しますが、現在、陸奥湾内の中層の水温が20~21℃ですので、これからラーバの出現と付着が増加していくものと思われます。

ネンエキボヤは水温15℃~20℃位でラーバを放出することがわかってきていますが、群体内のラーバの状態から付着盛期を迎えているものと思われます。

オベリア類(クサ)のクラゲがわずかに見られますが、本格的な付着は年明けになるものと思われます。

キヌマトイガイ(コメガキ)は、年明け以降にラーバが出現すると思われます。

10月からは25年度、26年度と同じ湾内6点(図1)で調査し、月2回ラーバ情報を発行しますので、養殖作業の参考にしてください。次回は10月上旬に発行予定です。

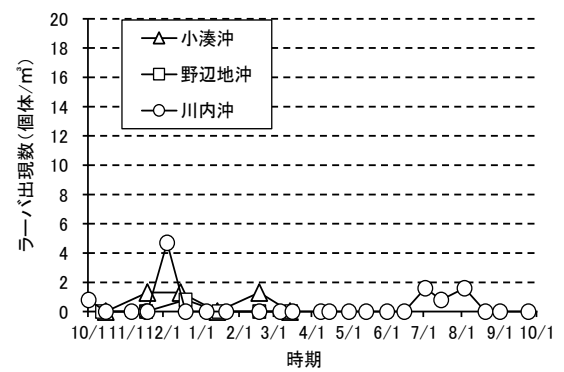
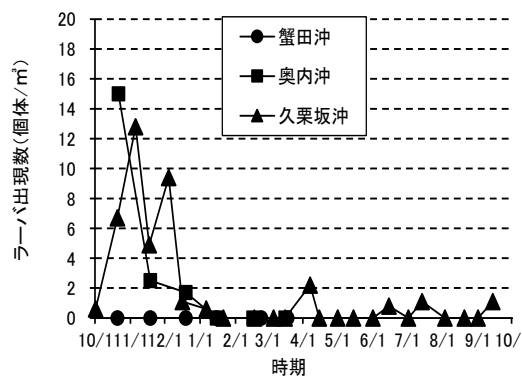


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移(26.10~27.9)

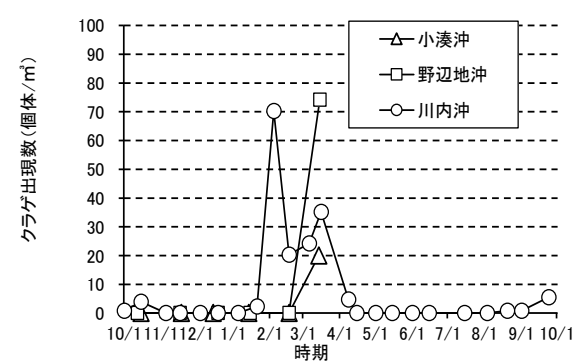
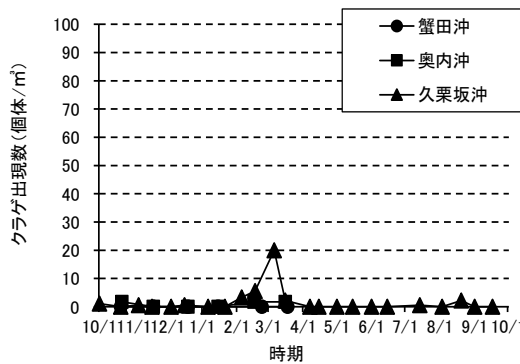


図3 オベリア類クラゲ出現数の推移(26.10~27.9)

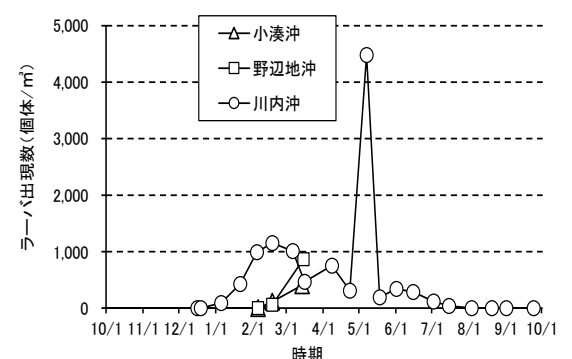
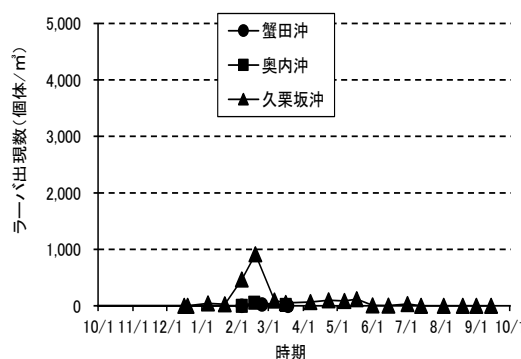


図4 キヌマトイガイラーバ出現数の推移(26.10~27.9)

